

平成 22 年度第 5 回 (通算第 36 回) MT 委員会 議事録

日時: 9月17日 13:30-15:00

場所: 仁科記念棟 2F 会議室(201 号室)

出席: 酒井(委員長)、福西、神原、加瀬、久保、久保野(CNS)、大津(櫻井代)、下浦(CNS)、上野、若杉、延與(オブザーバー)、上坂(UEC、オブザーバ)

欠席: 上垣外、森田、櫻井、上菘、本林(オブザーバー)、吉田(オブザーバ)

(順不同・敬称略。以下同様)

【報告】

1. 9月MT変更

- 前回MT委員会で承認されたことをうけ、9/5-21 及び 9/29-10/22までを森田MT、9/24-25を U commissioning (1.5日)とした。これにより次の変更を行なった。
 - ML0901-LINAC18 (工藤, 9/10/21:00-9/13/9:00) MT をキャンセル
 - IB0702-RRC01(阿部)+ML0901-RRC20(泉) MTを一日遅らせて、9/26/9:00-23:00 から 9/27/9:00-23:00 に変更
- CNSセンター長からの要望を受け、MT委員長の判断により、A19(CNS2005-4)-2-3 実験 (代表者: D. Kahl)を0.5日延長した。

2. BigRIPS 真空系トラブルその後

- NP0906-RIBF16 (小林) MT 実験中、STQ1-D1 間で即時修復できない真空漏が発生したため MT をキャンセルした件について: 後日調査したところ、一次ビームが近傍のダクトを直撃し、発生した二次粒子の照射による発熱若しくは放射線損傷でゴム O-リングがダメージを受けたのが原因であろうとの報告があった。
- 秋の BigRIPS 実験シリーズに向け、耐放射線性のゴム O-リングを用いて対応することにした。来年の夏にピローシールの導入による本格的な改良を行なう。
- 今期 ^{48}Ca の積算量が多いと、残留放射能が高くなりピローシール導入工事に支障をきたす可能性がある。ビーム強度を制限せねばならない場合、事前に実験者に協力を求めるよう MT 委員長からあらかじめ連絡する。

3. MT 委員会議事録配信について

- これまでのメールによる議事メモ(速報)配信に加え、委員会承認済議事録をwebにて公開開始。
(http://www.nishina.riken.jp/UsersGuide/MT_Committee/meeting_minutes.html)

4. PAC 進捗状況

- NP-PAC : 8th NP-PAC (12/3-4(5)) 準備開始
 - 暫定NPPACスケジュールの案内をし、proposal update を可能とする旨、ユーザーへ連絡 (8/13)。
 - Call for Proposal 9/10に配信。締め切りは10/8。今回、締め切り後の一週間に装置担当者による技術的審査を行ない、レポートをPAC委員と申請者へ送付する予定。
 - 次々回 9th NP-PACではSAMURAI を Call-for-Proposals に記載し、実験課題を募集することを検討。SCRITもいざれそうする。
- ML-PAC
 - 6th PACからの答申→センター長承認→ユーザーへ結果通知。
 - 7th ML-PACの日程を 1/11-12 に決定→委員へ通知。

- 産業PAC: センター長承認→ユーザーへ結果通知。

5. その他報告

- STQ24がSHARAQへのビームラインに設置された。
- 種々の状況がはっきりしないので、2010年9月末までの借用期間はすぎたが、Kappa磁石はまだRIBF内に設置したままである。詳細については交渉中[†]。

【議題】

1. 前回議事録承認

2. Detector Development Beam Time (DDBT) 募集について

- 7/19-8/1に募集を行なったDDBTに、下記二件が申請され、両方とも採択することとした。但し、申請者にはMT割り当ての優先度は低いことを了承してもらう。
 - 「新しい学生実験セットアップでのビームトランスポート最適化およびバックグラウンドの評価」(大田 東大CNS): 要求 0.5 日, α ビーム, $E/A=6.5$ MeV, $I=10$ pA, E7B コース
 - 「ダイヤモンド検出器の開発」(道正 東大CNS): 要求 2 日, α ビーム, $E/A=8.8$ MeV, $I=10$ pA, E7B コース
- 次回から申請者に5分程度説明してもらう。

3. 下期MT案

- 7/19-8/1に旧RARF施設分のMT募集を行ない、今回提示のあったMT委員会準備会による策定案を承認した。なお、BigRIPS分は既に第34回MT委員会(6/18 開催)にて承認済。このMT計画はスケジュールが非常にタイトであるため、トラブル発生時も殆んど融通をきかせられないことを、MT委員長からあらかじめ周知する。
- 11月初旬の段階では RILAC-II 建設・commissioning が完了していないが、上期と同様に BigRIPS 関連実験 MT の先行募集をする。同時に RILAC-II による ^{124}Xe ビームの開発が順調でなかった場合の対策を、RNC 副センター長を中心に検討する。但し Xe/U の開発順は変わらずこの通り。
- 次回から MT 表にイオン源も記載する。

4. BigRIPS Beta-decay 実験割り当ての要望

- 秋のBigRIPS ^{48}Ca シリーズ (In-beam gamma) 実験中に、最下流まで飛んでくるRIビームを用いて NP0702-RIBF11(西村)をパラサイト実験として実施したいとの要望があった。MT消化扱いとすることを条件にMT割り当てを承認した。なお、主実験グループからは了承済との由。

5. MT採択された課題に関する施設側でのイオン源試料手配の基準

- 原則として ^{48}Ca , ^{124}Xe , ^{238}U のような基幹産業とされたビーム以外はユーザーで手配してもらう。
- トラブルを避けるため、Proposal が提出された後、PAC審査前の技術審査を強化し、この段階でチェックすることとした。施設で用意しないビームの場合はその旨実験代表者に通知する。

6. 次回MT委員会の日程

- 次回MT委員会は 10/15 (金) 13:30-15:00 で調整。

(以上)

[†] 10/13 に配信した第 36 回 MT 委員会議事録は、一部誤った情報に基づき作成されておりました。訂正しお詫びいたします。